

202301.19. 木曜礼拝 神が退かれると恐れが入り込む

エレミヤ 49 章

JD ファラグ牧師

天のお父さま、天の王よ、主よ、あなたの民として共に集まることのできるこの木曜日を感謝します。今夜、私たちに語ってください。そして、主よ、私たちの霊を静めてください。私たちの思考を澄ませて、私たちのために用意しておられるものに集中できるようにしてください。この時間と、この場所に感謝します。あなたの忠実なしもべである JD 牧師が、今晚あなたの御言葉を伝えてくれることを感謝します。この時間を祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。どうぞお座りください。ここに居られる皆さん、オンラインで参加の皆さんも歓迎します。ようこそ。それでは、すぐに取り掛かりましょう。これはすごい章です。今夜は 49 章の一章だけです。その理由は分かるでしょう。だから、いわゆる腕まくりをして、すぐにでも取りかかりたいんです。よろしければ、もう一度祈りましょう。神の御言葉と共に過ごす時間を神が祝福してくださるように求めましょう。

父よ、私たちはもう一度、今夜、聖霊が私たちの教師となり導き手となってくださらないなら、今夜の時間は無駄になってしまうことを、素直に認めます。そんなことを望んでいる人は、ここには一人もいないと思います。ですから、私たちはあなたが必要です。私たちの注意が散漫にならないように、聖霊が私たちの注意を引きつけてくださる必要があります。主よ、この章にはたくさんの方が詰まっています。聖霊が私たちに見る目を与えて下さらなければ、これを理解することは出来ません。ですから、主よ、私たちは霊的な領域で、主が私たちに見せたいものが何であるかを見ることができるよう、その視野、視力が必要です。主よ、それを私たちに示し、語り、導いてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

では、今夜の章では、神が退かれるときに必ず入り込む恐れについて、最も重要な原則が語られています。この章に登場するすべての国に対する神の裁きの共通点は、恐怖が生じるということです。木曜日の夜の聖書の学びの準備をする時は、私は通常、その章を何度も読み返します。実はこの章は、その内容のゆえに、いつもよりたくさん読み返している自分がいました。その結果、10 以上の節を見つけることができました。実は、もっと見つけ続けたので、やめたんです。というのも、明らかに 10 個以上あるからです。この恐怖をさまざまな形で表現している 10 節を見つけました。これは矛盾しているように見えるかもしれませんが、私がこの章を読んで励まされたように、皆さんも今夜励まされることを願っています。なぜなら、この原則はどちらにも当てはまるからです。

説明します。神が去られると、恐怖が入って来ます。しかし、逆に言えば、神が入って来られると、恐怖は去っていきます。ここで、恐怖についてです。恐怖について、私はよく知っています。私は恐怖と心配と不安と心配事とストレスの博士号を持っています。だから、恐怖というものを知っています。私はこれまで何度も恐怖の杯を味わってきました。恐怖とは、こうです。恐怖は、神が近くにいることを望んでいません。その議論、その状況、その方程式において、神が近くにおられるなら、恐怖はそこに存在し得ません。恐怖と信仰は共存できません。どちらか一方だけであり、私の状況に神がいる限り、私は恐れを抱かないということに比例します。また逆に、私に恐れがある限り、私は神を持たないこととなります。起り得ません。どちらか一方です。この章はこのような内容になっています。まさに教訓です。

さて、取り掛かる前にもう一つ。この話をするのは少し躊躇したのですが、しなければならぬと思います。48 章はモアブ人についてでした。49 章はアンモン人から始まります。彼らは創世記 19 章によれば、

ロトの娘たちに対していと同じくであり、悲しくも不道德なことでした。ロトの娘たちは、自分たちの家系を心配して、父ロトを酔わせて誘惑し、妊娠して、この二人の息子を産み、後にモアブ人とアンモン人になります。さて、これは皮肉な話です。驚くべきことではありません。これは神の御言葉が生きているということであり、あなたがどんな状況にいても、神の御言葉は生きてきます。つまり、あなたが今どこにしようと、それは神の御言葉に書かれている場所にいます。神の御言葉のどの箇所にとしようと、そこはあなたに当てはまる箇所です。たぶん、あまりうまくいかなかったと思いますが、要点は分かりますね。これは、本当に神がなさることで、日曜日の第二ペテロの手紙は、主の御心なら、神がいかにして試練や苦難から敬虔な人々を救うかを知る3つの例のうちの1つとして、ペテロがロトについて言及したことについてお話しします。私だったら、絶対にロトを例に出さないでしょう。ノアは大丈夫です。洪水があって、…ええ、大丈夫です。良い例です、ペテロ。でも、ロトは…、分かりません。ちょっと大まかな内容ですが、何が起きたか知っていますよね？ ペテロはロトについて言及するだけでなく、「ロトの正しさ」について3回以上言及しています。何?? ちょっと待ってください。すみませんが、本当ですか？ そこで、こうしてみました。今日、私はもう少し時間をかけたのですが、良かったです。この章はそれを保証するものだと思います。その章を、ここですぐに見ていきますが、私は、保存しておいた創世記19章のノートを見返しました。荒れていました。それはこんな感じです。

「神さま、私だったら聖書のページに、これを含めなかったでしょう。私はこれを知りたくありません。これは余計な情報です。彼らはこんなことをしたんですか…？ 神はこう仰っているようです。

「下品で淫らなものだから含めたわけではありません。わたしがどれだけ良い者か、どれだけあわれみ深いかを見てほしいから入れたのです。」

今夜のモアブ人とアンモン人に関してもそうです。また、エドム人もエラム人も見ていきます。ですから、モアブ人とアンモン人はいと同じくです。いいですね？ つまり、現代のヨルダンとして知られている地域に住んでいた人々です。エドム人もそうでした。このことも間もなく出てきます。

エドム人は、エサウの子孫でした。ついて来て下さい。モアブ人とアンモン人はいと同じくです。エドム人のエサウは、ヤコブの二卵性の双子の兄です。さて、これらはすべて、現代のヨルダンとして知られているところです。それらはすべて関連しています。そして今、神はその正義と慈悲をもって、エレミヤを通して彼らに対する裁きを預言されようとしておられます。そして、回復を見ることになります。すべての人がそうではありませんが。すべての人ではありません。では、この導入で準備は出来ましたか？ 1節。

—エレミヤ 49:1—

アンモン人について。…

補足しますが、ヨルダンの首都「アンマン」という名は「アンモン」から来ています。

…主はこう言われる。「イスラエルには子がないのか。世継ぎがないのか。なぜ、ミルコムが…

これは彼らの神、モレクです。腹の中に火をつけた鉄の像。ところで、この言葉の由来は、エルサレム郊外のヘノムの谷にある、イスラエル人が子どもを生きのまま生け贄として、両手を広げたモレクの銅像の上に置いたところからきています。それはこの神、ミルコムに捧げられました。別名、モレクです。

…なぜミルコムがガドを所有し、その民が町々に住んでいるのか。

—エレミヤ 49:2—

それゆえ、見よ、その時代が来る。—主のことば— そのとき、わたしはアンモン人のラバに戦いの雄た

けびを聞かせる。そこは荒れ果てた廃墟となり、その娘たちは日で焼かれる。イスラエルがその跡を継ぐ。—主は言われる—

2節に入って、いきなり、ここには、倒れていたイスラエルの土地を所有したアンモンに対する戦いの警報という形で、その恐怖が描かれています。彼らはイスラエルの土地を所有することを望んで、移り住んできました。

—エレミヤ 49:3—

ヘシュボンよ、泣き叫べ。アイが...

これはヨシュアに書かれているアイとは違います。また、人工知能 (A.I.) でもありません。はっきりしておきます。— (笑) — 確認です。初めて通して教えた時、アイ (AI) はそういう意味じゃないんです、ただ、街の名前ですと。脱線しました。

—エレミヤ 49:3—

ヘシュボンよ、泣き叫べ。アイが荒らされたから。ラバの娘たちよ、わめけ。荒布をまとえ。嘆いて囲い場の中を走り回れ。ミルコムが、その祭司や首長たちとともに、捕囚として連れて行かれるからだ。

また出てきました。先週の48章で見たとおりです。彼らの神、彼らの偶像が捕らえられました。あなたの神が捕囚され、あなたの神を救い出さなければならないのは深刻な問題です。私の神は私を救い出され、私が神を救い出す必要はありません。

—エレミヤ 49:4—

背信の娘よ、おまえの谷には水が流れている。なぜ、その谷を誇るのか。おまえは自分の財宝により頼んで言う。『だれが私のところに来るだろう』と。

それは言わない方がよかったかもしれません。

—エレミヤ 49:5—

見よ。わたしは四方からおまえに恐怖をもたらし。一万軍の神、主のことば— おまえたちはみな散らされて、逃げる者を集める者もない。

しかし、…ああ、神は非常にあわれみ深いです。

—エレミヤ 49:6—

(しかし、) **その後、わたしはアンモン人を回復させる。—主のことば。**

先週の48章の際に、ここに居られた皆さん、46の過酷な節は、彼らに対する裁きでした。読むのが困難でした。想像できますか？ そして、47節にたどり着くと、こんな感じです。「わたしはあなたを回復させる」！！？ 一節だけ。せめてそれに関して2節くらいあってもいいのに。1節だけです。「わたしはあなたを回復させる」と。つまり、これらすべての後にですか？「そうです、わたしはあなたを回復させます。わたしは回復の神だからです。わたしは回復の神です。」

今、思いつきましたが、これは、イザヤ書19章を思い出すことがたくさんありますエジプトに関する預言がある箇所です。その章の終わりには、神は預言者イザヤにエジプトについて、彼らを「わたしの民」と呼ぶと宣言しておられます。彼らは「わたしの民」です。私の父はエジプト人でした。私は「神の民」です。待ってください。イスラエルが「神の民」だと思っていました。いいえ、エジプトが「わたしの民」であり、イスラエルは「ゆずりの民」です。神はエジプトを回復され、エジプト人を回復させられます。千年王国を迎えるとき、言いようのない深い驚きが待っていると思います。私たちは、これらのすべての人々、グループ、部族、国民、人々、すべての異言語を見ることになります。神が彼らを回復させられる

ので、これらの人々はそこにいることとなります。7節。ここでエドムが出てきます。

—エレミヤ 49:7—

エドムについて。万軍の主はこう言われる。「テマンには、もう知恵がないのか。賢い者から分別が消え失せ、彼らの知恵は朽ちたのか。

—エレミヤ 49:8—

…逃げよ。そこを離れよ。深く潜め。…

「岩の裂け目に住め。」これがここでもすぐに出てきます。

…デダンの住民よ、…

待ってください。これはエドムのことだと思っていました。デダンは、現代のサウジアラビアの地域ではないでしょうか？ ええ、でもサウジアラビアは現代のヨルダンや当時のエドムに近いです。預言者エレミヤを通して神が言われていることは、…ところで、サウジアラビアはエドムと距離を置いた方がいいかもしれません。なぜなら、これが降りかかってくるからです。これがやって来るからです。その時は避難した方がいいかもしれません。

…わたしが彼の上にエサウの災難を、彼を罰する時を、もたらすからだ。

さて、9節は興味深いです。

—エレミヤ 49:9—

ぶどうを収穫する者がおまえのところに来るなら、彼らは取り残しの実を残さないだろう。盗人が夜中に来るなら、彼らの気がすむまで荒らすだろう。

しかし、…10節です。「わたしはそんなことしません。」非常に緩い言い換えです。「わたしは何も残しません。」

…わたしはエサウを裸にし、その隠れ場をあらわにし、身を隠すこともできないようにする。彼の子孫も兄弟も隣人も踏みにじられ、彼はいなくなる。

そして11節です。ここでまた、神のあわれみです。聞いてください。

—エレミヤ 49:11—

おまえのみなしごたちを見捨てよ。わたしが彼らを生かし続ける。おまえのやもめたちは、わたしにより頼まなければならない。」

ヤコブ書を思い出してください。

純粋で汚れのない宗教とは、孤児やもめを助けることです。(ヤコブ 1:27)

この裁きがエドムに宣告されました。この罰は、エサウが自ら招いたものです。覚えておいてください。

その中に、神のあわれみを包んでいるのです。しかし、待ってください。

「やもめやみなしごのことは、わたしが世話をみます。わたしが彼らの世話をします。彼らをわたしに任せ、わたしに信頼させなさい。」主に信頼を置く者は、決して失望することはありません。

—エレミヤ 49:12—

まことに主はこう言われる。「見よ。その杯を飲むように定められていない者でも、それを必ず飲まなければならないのなら、おまえだけが罰を免れられるだろうか。罰を受けずにはすまされない。おまえは必ず飲まなければならない。

—エレミヤ 49:13—

まことに、わたしは自分にかけて誓う —主のことば—。

言い換えると、「わたしは神に誓うが、わたしが神です。だからわたしは自分に誓います。」言いすぎですか？それが神が仰っていることです。「わたしは自分に誓います。」私たちが「神に誓う」と言うのと同じですが、「わたしが神なので、何に向かって誓おうか。自分に向かって誓おう。」それは誓いを立てることです。言い換えると、神が仰ることは、それで決まりです。「わたしは誓う」主よ、あなたはご自身にかけて何を誓われるのですか？

…必ずボツラは…

さて、この街はヨルダンの岩窟都市ペトラと近接していました。当時はエドム人の首都でした。ボツラに関して、主はこのように誓っておられます。

…必ずボツラは恐怖のもと、そしりの的、廃墟、そしてののしりの的となる。そのすべての町は、永遠の廃墟となる。

—エレミヤ 49:14—

私は主から知らせを聞いた。「使者が国々に送られた。『集まって、エドムに攻め入れ。戦いに向けて立ち上がれ。』」

—エレミヤ 49:15—

見よ。わたしがおまえを国々の中の小さい者、人に蔑まれる者としたからだ。

16節を聞いてください。

—エレミヤ 49:16—

岩の裂け目に住む者、丘の頂を占める者よ。おまえの脅かしと高慢はおまえ自身を欺いている。鷲のように巢を高くしても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。—主のことば。』

ペトラを訪れたことのある方にとっては、これは納得がいきますね？つまり、そびえ立つ岩で…妻と私は、私の家族がそこにいるので、いとこがペトラに連れて行ってくれました。アンマンから車でペトラに行き、そこで1日を過ごしました。時間が足りないくらいです。この要塞化された岩窟都市への入り口は一つしかありません。聖書解説者の間では、実はヨブはペトラに住んでいたと考えられています。それは、ヨブがどれほど裕福で、どれほど多くの家畜を持ち、どれほど多くの財産を持っていたかを考えれば、納得がいくことでしょう。それはただただ、言葉にするのも難しいほどで…忘れられないのは、私はカメラを取り出して、…カメラです。これはカメラがあった頃の話なんですが…カメラです。写真を撮りに行ったら、カメラが「冗談でしょ？これを写真に収めろと？そんなことありえない。」とにかく馬鹿にして笑っているような感じです。私の問題はもう十分ですね。息をのむような美しさでした。言葉では言い表せないほどです。行ったことのある方は、この狭いところを歩くと、…ぜひ、ペトラについて少し勉強して調べてみてください。ペトラは7年間の患難の後半3年半の間、ユダヤ人にとって聖書預言の中で重要な役割を果たすことになります。そこでユダヤ人は、自分たちを滅ぼそうとする反キリストから身を守るために、神が用意された場所に逃げ込むと考えられています。実際、ある聖書教師はそれを確信して、1800年代にペトラに行ったそうです。彼はペトラの岩の隙間に、マタイ24章から逃げて来たユダヤ人に語っている新約聖書のすべての箇所を置きました。黙示録の箇所を。あえて言うなら、エレミヤ書49章も含まれていたかもしれません。というのも、「あ、これはペトラだ」「私たちはペトラを良く知っている」と分かってもらえるからです。ペトラとは岩という意味です。ペテロは、小さい岩。石はペブル。そういう意味です。「岩」この巨大な、広大な岩の街で、あなたは守られているのです。そして、鷲が…実は、最初に入った時、この宝庫には、この固い岩にそびえ立つ2枚の鷲の翼が彫られて

いました。彼らは、異教の神々を崇拝する神殿を彫りました。岩の中に銀行やコロシウム、神殿、精巧な家屋を彫りました。私がどこに向かっているか分かりますね？

「エドムよ、あなたは守られていると思っている。あの岩窟都市ペトラに隠れられると思うのですか？ 鷲のように高く巣を作り、誰にも触れられず、誰も近づけないと思っているのですか？ いいえ、わたしはそうします。わたしはあなたを倒します。あなたは岩の裂け目に隠れに行きます。」

これは、子羊の御怒りから隠れるときの黙示録に少し似ていると思いませんか？（黙示録 6:16）

子羊の御怒り。キリストのことです。彼らは子羊の御怒りから岩の裂け目に身を隠しているのですか？ 彼らは地下に潜るのです。私はしばしば、大金持ちが作った地下のバンカーについて考えます。「世の終わりのバンカー」を知っていますか？ 実際にそう呼んでいると思います。適切な名称だと思います。

「ああ、下に行けば安全だと思っているのですか？」「いや、私はそんなことはしていない。この場所は、とても高いところにあり、侵入することはできない。」「ええ、知っています。実際、わたしがその山を創造しました。そこにいる鷲も、わたしの創造物です。いいえ、わたしはあなたを倒しています。あなたを引き抜いています。好きなだけ下に潜ればいい。しかし、わたしはあなたを捕まえます。」17節。

—エレミヤ 49:17—

エドムは廃墟となり、そこを通りすぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての内傷を見て嘲笑する。

—エレミヤ 49:18—

ソドムとゴモラとその近隣の町々が破滅したときのように —主は言われる— そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。

これは…思い出してください、これはこんな感じです。「わお！ここで何が起きたんですか？ 荒廃しています。これはかつて壮大なもので、世界の七不思議の一つでした。何があったのですか？」ああ、これが起こりました。これが起きました。

「あなたは驚きましたね。わたしはあなたがたは驚くと言いました。通り過ぎる者はみな、呆気にとられると。」ペトラを歩いていると、「うわお～！」これは素晴らしい場所です。かつては、ここが理想の場所だったのでしょ。何が起きたのですか？ これは驚くべきことです。「わたしが語ったとおりです。」みんなどこにいるんだ？「誰もそこに住んでいません。」

—エレミヤ 49:19—

「見よ。獅子がヨルダンの密林から常に潤う牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人をそこに置く。だれがわたしのようであろうか。だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる牧者であろうか。」

エレミヤがここで言っているのは、ネブカドネツアルは、預言されたエドムの滅亡をもたらす神の御手による道具であるということです。たとえネブカドネツアルがそこから抜け出そうとしても、抜け出せないのです。

「あなたはわたしから逃げたいのですか？ 無理です。逃げられても、隠れられません。わたしがあなたを任命したのなら、あなたはそれを実行することになります。」

先週の48章で、面白い表現がありました。

「ネブカドネツアルよ、ためらったり、躊躇したりしないほうがいい。ネブカドネツアル、あなたはこの裁きと罰をもたらすために、わたしの御手にある道具だから、わたしの命じたとおりに、徹底的に、完全に行いなさい。」

—エレミヤ 49:20—

それゆえ、聞け。エドムに対して立てられた主の計画を、テマンの住民に対して練られた策を。…

テマンとはエドムの町です。

…必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。

—エレミヤ 49:21—

彼らの倒れる音で地は震え、どれほど恐ろしいことでしょう。その悲鳴は葦の海でも聞こえる。

—エレミヤ 49:22—

見よ。彼は鷲のように舞い上っては襲いかかり、ポツラに敵対して翼を広げる。その日、エドムの勇士の心も、産みの苦しみにある女の心のようになる。

それは恐怖です。パニックです。では、ここに書かれていないことに注目してください。このエドムに対する裁きには、モアブ人やアンモン人のような回復の言及がないことに注目してください。どうしてか？なぜか？さて、これに関してキャンベル・モーガンの解説から紹介したいと思います。一番いいことを言っていると思います。彼はこう言います。

「これらの国々の中には、そのような回復が預言されていないという事実は、神のあわれみだけでなく、神の裁きにも完全に抵抗し、回復の可能性がないという恐ろしい可能性を明らかにしている」

つまり、神が回復を拒絶し、拒否されたのではなく、むしろ、彼らが神の回復を拒絶し、拒絶したのです。

それが理由です。神は喜んで、回復の用意をしておられます。神は回復の神です。赦しの神です。あわれみ深い神です。しかし、その人の意思に反して無理やり押し付けるようなことはされません神は私たち全員に自由意志を与えておられます。神はエサウに自由意志を与えられました。ややこしい箇所があります。これについてお話ししました。この章の文脈で触れるのが適切なのかもしれません。

エサウは悔い改めを見出せなかったと言われていました。(ヘブル 12:7)

最初は、エサウにはその機会がなかったのだと考えてしまいます。エサウは悔い改めることが出来なかった、というように。全くそういうことではありません。つまり、悔い改めを見出せず、不可能だったというのは、悔い改めとは、父が悔い改めず、弟ヤコブに与えられた祝福について考えを改めないことを知っていたことです。そういう意味です。では、それに対してエサウはどうするのか。彼は激怒し、反抗し、拒否し、その上で神を拒絶します。神はここで、両手を広げておられます。これは…これは、本当に身近な話になってきました。これからベドウィンの話をしますから、ここでさらに身近になります。あの辺りのアラブの遊牧民のグループです。私たちはまた…彼らは私の同胞です。私の同胞です。エドム人、モアブ人、アンモン人。母がその地域の出身で、父はエジプト人です。イシュマエルにしても、イサクの異母兄でした。

要点は、私が言いたいのは、DNA です。従兄弟同士であり、親族です。アラブの人々は、実際にそのことについて話しながらないのです。これらは血縁関係にある人々です。私がこの話を持ち出した理由は、神がエサウを愛しておられるからです。しかし、エサウは神を拒絶します。彼らは神の愛を拒絶します。神のあわれみを拒絶します。ある時点で、神は彼らを引き渡されます。それは、エサウの運命がすでに決まっていたからです。彼の心はすでに硬くなり、彼の心はすでに決まっていました。だから、神はただ…他に何ができるでしょうか？

「あなたはどうやら、すでに決心したようです。あなたはわたしを拒絶しました。わたしはあなたに自分

を強いることはしません。」

そこで、これがエサウに起こったことです。だからエドム人には回復がないのです。なぜなら、エドム人、エサウは主を拒絶したからです。主が拒絶されたわけではありません。これは、私たちが立ち止まるべきことではないでしょうか？ 心の静けさの中で、聖霊にこのことに関して私たちの心を探っていただきましょう。私たちはこのことを、次のような旗印のもとに否定しないように。「ああ、私はそんなことしたことはない」本当ですか？ 考え直してみましょう。私たちの生活の中で、拒否している分野は何でしょうか？ 拒絶していることは？ 私たちはうなじを硬くし、主に対して心を硬くしています。そして主は、ただ準備して待っておられます。でも、悔い改めがありません。悔い改めとは、180度変わるということです。あなたが考えを変えると、神があなたの心を変えられます。しかし、あなたがまず考えを変えない限り、神はあなたの心を変えられません。悔い改めはなく、変化はありません。方向転換がありません。私たちは、自分の人生における神の祝福、神の恵みと憐れみの御手を、私たちの頑なさや拒絶の縄で縛ってしまいます。

では、先に進みましょう。特に頑なさについては、今とても罪を示されています。皆さんには関係ないことは分かっています。— (笑) — ああ、その強情さ、頑なさ。23節。

—エレミヤ 49:23—

ダマスコ（シリア）について。「ハマテとアルパデは恥を見た。まことに、彼らは悪い知らせを聞き、海のようにかき乱され、静まることもできない。

—エレミヤ 49:24—

ダマスコは弱り、恐怖にとらわれ、身を翻して逃げた。産婦の陣痛のような苦しみにとらえられて。

—エレミヤ 49:25—

どうして、誉れの町、わたしの喜びの都が捨てられたのか。

（ダマスコは主の喜びの都でした）

—エレミヤ 49:26—

それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。一万軍の主のことば—

—エレミヤ 49:27—

わたしは、ダマスコの城壁に火をつける。その日はベン・ハダドの宮殿を食い尽くす。」繰り返しになりますが、今夜の教訓は、神の不在に比例して、いかに恐れが私たちに支配し、捉え、追い詰め、私たちの心が恐れゆえに失われていくかということです。

なぜか？ 私たちが主に背いたからです。主に敵対するからです。もし主が招待されなかったら、恐怖が返信することになります。そして、恐怖があなたをとらえます。恐怖が私を襲います。神は私たちに恐れゆえの霊を与えておられません。パウロがテモテに書き送った、私たちにも馴染みの深い一節です。（Ⅱテモテ 1:7）

恐れゆえの霊の代わりに、… このように理解するのが良いです。聖霊は私たちに恐れを与えません。それは聖霊ではありません。それは悪霊であり、悪魔的な霊です。聖霊ではありません。もし恐れがあるなら、それは主ではありません。では、主は、聖霊は、代わりに何を与えてくださるのでしょうか。力、可能性、愛、そして、これは残念ながら誤解されています。慎みの霊。訳が良くありません。「訓練された思考」と理解するのがよいでしょう。これに関してお聞き下さい。これは、私が苦勞して学んだことで

す。率直に言えば、私自身、恐怖との葛藤の中で、それを証明する傷跡があります。自分の思考を訓練しなければなりません。敵は1日に何度もあなたの思考に恐怖を植え付けようとし、恐怖の考えを植え付け、あなたが敵に協力する限り、あなたをその恐怖の道へと連れて行くからです。親が子どもを躾けるように、自分の思考も躾けなければなりません。

「それはいけない。私はすべての思考を捕らえ、キリストに従わせる。自分の思考を訓練し、キリストに従わせる。」

それは訓練であり、戦場は思考の中です。サタンは私たちの思考の中にアクセスできます。サタンは思考を読むことはできません。神に感謝します。しかし、私たちの思考にアクセスすることは出来ます。サタンは疑いや恐れを種を蒔き始めます。そして、それが心の中のしなやかな土壌と出会うことで、発芽し、芽を出し始めます。そして突然、やってくるのが、いつも続いて起こるのが、「もしも」のシナリオです。

「お〜...もしも、もしも、もしも...」いや、あなたはお仕置きを受けます。「わたしはあなたを訓練します。それはダメです。お仕置きタイムです。」しつけのためなら何でもしてください。まあ、最近は気をつけないといけませんね。しかし、それは

「むちを控えると、子を駄目にする」 ことです。(箴言 13:24)

自分の思考を訓練することを控えると、自分の思考を駄目にします。敵のやりたい放題を許してしまうのです。敵が書きたいだけ記入できる白紙の小切手を渡してしまっています。そんなことさせてはいけません。鍛えられた思考です。神はまた、あなたに力を与えておられます。自分の思考を訓練する力を与えてくださっています。また、聖霊の実は愛です。(ガラテヤ 5:22)

聖霊の力、自制、訓練された思考。では、最後にもうひとつ。この描写にはいつも罪を示されます。実は嫌いなんです。その理由がすぐに分かるでしょう。健康意識の高い方っていますよね？ 体に取り入れるものには、とても気を遣っています。「私はそんなもの食べません。」「私はとても規律正しいです。健康に気を遣っています。」さて、あなたは自分の体に入れるものにはとても気を付けているかもしれませんが、自分の思考に入れるものにそれほど気を付けていますか？ 嫌いだと言ったのは、そのためです。というのも、私は何でも食べますから。特にタコス。とにかく...。すでに進行中の聖書の学びに戻らないといけませんね。

では、ダマスカスについてお話しする必要があります。良いですか？ 28節の遊牧民に対する裁きの前に、このダマスカスの預言を取り上げないのは、非常に不誠実であると思います。長年にわたり、エレミヤ書 49章とイザヤ書 17章の両方が、シリアのダマスカス破壊についてのまだ未来の預言として見られてきました。しかし、ここでエレミヤはその破壊を預言していません。むしろ、これまでダマスカスが大きな被害を受けることとなります。しかしそれに対して、イザヤ書 17章1節は、都市として住めなくなると言われるほどのダマスカスの破壊に特化した預言です。それが議論の対象となります。ある解説者はこのように言っています。

「解説者はこの預言をダマスカスに関する記録的な出来事に当てはめるのは困難である」

つまり、エレミヤ書 49章もイザヤ書 17章もまだ未来の話である可能性がある一方で、そうでないとも言えます。個人的にどのような立場にあるかという...それは非常に良い質問ですね。では 28節。いえ、そうできればいいのですが。ー (笑) ー

つまり、何年前から来ている人は、イザヤ 17章とエゼキエル 38章、イザヤ 17章とエゼキエル 38章、イザヤ 17章とエゼキエル 38章...実際、そのような批判を受けることもありました。

「イザヤ 17 章とエゼキエル 38 章以外の話をお願いします。」そして、2020 年に何が襲ったかご存じですね？ そのことを話し始め、今もやめていませんし、止める予定もありません。理由は明白だと思われませんが、そのためです。だから今、批判されているのは「それ以外の話をするにはできないのか？」しません。する予定もありません。どうしたって批判されるんだから、まあいいです。私はどのような立場にあるのでしょうか？ こう言わせてください。まだ検討中です。いわば、私の終末論的なテーブルの上にまだ残っていますすべてが揃っています。この 3 年間、多くの預言や聖句を再びテーブルの上に置く必要がありました。ところで、もう 3 年になるんですよね？ そうですね？ よし、やってみましょう。この前、妻と一緒にやったんです。2020、2021、2022、3 年間です。

「なぜそんなに怒っているのですか？」なぜなら、誰もが「ここ数年は...」と言うからです。もう 3 年です！ よし、気分が良くなりました。2 年ではありません。3 年です！

では、主よ、本当にごめんなさい。どうか私を憐れんでください。私はおそらく、アンモン人かモアブ人であって、これに関してエドム人を一切訴えていませんよ。しかし...この 3 年間で、いろいろなものを元の場所に戻さなければなりません。というのも、すべてが変わったということに同意していただけでしょうか？ 3 年前の出来事が、すべてを変えてしまいました。そして、以前はただ見て、これはそうだと感じていたものを、もう一度見直さなければならなくなりました。まあ、今はそうもいきません。今起きていることを踏まえて、それを改めて整理し、そのレンズを通して見る必要があります。ちなみに、これには聖書的な根拠があります。ダニエル 12 章です。さて、ここでもう一つ。これは実は皮肉なことです。ダニエルは、終わりの時までこの預言の言葉を封印するようと言われます。

(ダニエル 12:4)

その章でダニエルは、こう預言しています。「終わりの時代に人々は探り回り、知識を増す。」ここで私のような人は、「私たちはそれを掴んでいる。技術や知識は飛躍的に向上した。つまり、情報、知識が増え、これはその預言だ。」

まあ、ちょっと待ってください。終わりの時に今起こっていることを踏まえて、それを元に戻してみよう。なぜなら、終わりの時に、封印が解かれるからです。技術や知識だけでなく、聖書預言に関する知識も増えていくでしょう。お〜...、これが私が拘っていることです。それが、ダニエル書、特に 12 章の預言の文脈なのです。終わりの時の預言についてです。これからもっと啓示があり、聖書預言に光が当てられるでしょう。そしてそのように、聖書預言が封印を解かれたとき、聖書預言の知識は増えます。

そのことに対して私の目は開かれ、「わお...！主よ！」聖書預言に関する知識、知識の増大こそが、ダニエルが預言したことであると信じています。それでは、大丈夫ですか？ 大丈夫ですね。さて、この章を終わらせましょう。まだ半分も終わっていません。言うべきじゃなかったかもしれませんが。時計は見ないで下さい。

—エレミヤ 49:28—

バビロンの王ネブカドネツアルが打ったケダルハツォルの王国について。主はこう言われる。「さあ、ケダルへ攻め上り、東の人々を荒せ。

—エレミヤ 49:29—

その天幕と（遊牧民です）羊の群れは奪われ、その幕屋も、すべての器も、らくだも、運び去られる。人々は彼らに向かって叫ぶ。『恐怖が取り囲んでいる』と。

—エレミヤ 49:30—

ハツォルの住民よ、逃げよ。遠くへ逃れよ。深く潜め —主のことば— …

…バビロンの王ネブカドネツアルが、おまえたちに対してはかりごとをめぐらし、おまえたちに対して計略をめぐらしているからだ。

—エレミヤ 49:31—

さあ、安んじて住む穏やかな国に攻め上れ。—主のことば— そこには扉もなく、かんぬきもなく、その民は孤立して住んでいる。

—エレミヤ 49:32—

彼らのらくだは獲物になり、その家畜の群れは分捕り物になる。わたしは、もみ上げを刈り上げている者たちを四方に吹き散らし、あらゆる方向から彼らに災難をもたらす。—主のことば—

—エレミヤ 49:33—

ハツォルはとこしえまでも荒れ果てて、ジャッカルに住みかとなる。そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。」

これは、アラブ人に対する預言です。遊牧民のアラブ人。ベドウィンのアラブ人。その富は…、忘れもしない1994年のことです。そう、息子たちが、年を取ると思い出せなくなるんです。1994年でしたか？ 97年はペトラ？ ええ、94年のイラエルです。バスの中において窓の外を見ると、そこにはベドウィンのテントがたくさんありました。そして、このテントの外には、ベンツが停まっていた。ああ、この人たちは裕福な人たちだったんです。彼らはベドウィンの人々ですが、これだけの富を蓄え、溜め込んできました。34節。

—エレミヤ 49:34—

ユダの王ゼデキヤの治世の初めに、エラムについて（これはイラン、ペルシャ）預言者エレミヤにあった主のことば。

—エレミヤ 49:35—

万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはエラムの力の源であるその弓を折る。

これは、古代ペルシャやエラムが得意とした弓道のことを語っています。彼らは弓矢の達人でした。弓矢は彼らの強みであり、そのことで知られていました。それが彼らの防衛手段であり、信頼を置いているものでした。実はここにパターンがあります。台無しにしなければいいのですが。富はベドウィンを守ってはいくれませんでした。知恵はエドム人を守りませんでした。武器はペルシャ人、エラム人を守ってはいくれません。神は彼らを捕らえ、彼らが力を注いだものを打ち砕かれます。

—エレミヤ 49:36—

わたしは天の四隅から、四方の風をエラムにふきつけさせ、彼らをこの四方の風で吹き散らす。エラムの散らされた者が入らない国はない。

—エレミヤ 49:37—

わたしは、エラムを敵の前に、そのいのちを狙う者たちの前にうろたえさせ、彼らの上にわざわいを、わたしの燃える怒りをその上に下す。—主のことば— わたしは、彼らのうしろに剣を送って、彼らを絶ち滅ぼす。

—エレミヤ 49:38—

わたしはエラムにわたしの王座を置き、王や首長たちをそこから滅ぼす。—主のことば—

そして、39 節です。主よ、39 節を感謝します。章の終わりです。

ーエレミヤ 49:39ー

しかし、終わりの日になると、わたしはエラムを回復させる。ー主のことば。」

聞きましたか？ 整理させてください。イランの話ですよ？ ええ。未だにこう唱えているアヤトラ・ハメネイのことです。「アメリカに死を イスラエルに死を」アメリカは大きなサタンであり、イスラエルと小さなサタンだと。同じものですか？ ええ、同じものです。神は終わりの日に彼らを回復されるのですか？ ーそうです。あなたに提案します。こんな話、聞いたことないでしょう。今、イランでは、イランの人々が大勢キリストのもとに来ています。さらに言えば、アメリカではイランと同じようにイエス・キリストの福音にオープンな人を見つけるのは難しいでしょう。世界で一番伝道しにくい場所はどこか知っていますか？ ここです。

「いや、でも、イランはイスラム共和国ですよ！？」ええ、神がそれをご存じないとでも思いますか？ ところで、このイスラム共和国、イスラムは人々を自滅へと導きました。なぜならイスラムには希望がないからです。彼らは絶望しています。希望がありません。これが起きていることです。イラン人はイエス・キリストの救いの知識のもとに来ています。女性は今でも、ヒジャブをかぶって外に出ます。そして、仲間のイラン人たちは、何かが少し違うことに気づきます。

「わお、あなたの笑い声を聞くのは久しぶりです。あなたの笑い声聞いたことがないと思います。その喜びはどこから来るの？」「あなたには...私にもそれが欲しいです。」そして、同胞であるイラン人にイエスを伝えているのです。イラン人はキリストのもとに来ています。彼らは非常に注意しなければなりません。イランでは、イエス・キリストの救いの知識を得たら、死んだも同然、殺されるのですから、彼らは非常に慎重でなければなりません。「彼らは殺します！」そんな感じです。(ペルシャ語でつぶやく)ペルシャ語です、アラビア語ではありません。だから、この辺にしておきます。しかし、それが真の生ける神への飢えと渇きを生んでいます。アッラーは偽の神です。モハメッドは偽の預言者です。イエスはイランの人々に届けられています。願わくは...かつて世界を伝道していたアメリカは、世界から伝道される必要があります。ところで、そうしているのです。知っていましたか？ 彼らはアメリカに宣教師を送っています。良いことです！ その話にはいきません。もう時間がありません。血圧が上がってしまいます。では、お立ちください。カポノ、上がって来て下さい。この辺にしておきましょう。神は回復される神です。「恐怖を取り除き、神を取り戻そう」というのはどうですか？

天のお父さま、感謝します。ここには沢山のことが詰まっていますが、しかし、最初に述べたように、ここですべてを見ることが出来る目を与えてくださるのは、聖霊です。今夜ここで見たものでさえここにあるすべてではないのですから。ここにはたくさんものがあります、主よ。あなただけがお出来になるように、聖霊によって、特に恐怖にとらわれ、麻痺しているかもしれない人々のために、次の段階へと導いてください。敵に恐怖と心配と不安の種をまかれてしまっています。神さま、恐怖を取り去るために戻ってきていただけませんか？ その恐怖を平安に置き換えます。あなたの平安はイエスです。それは世が与えるものではありません。パウロがピリピの人々に語った、人知を超えた超自然的な平安です。理解しがたいことです。キリスト・イエスにある私たちの心と体を守る、平和の神からの平安です。主よ、感謝します。私たちはあなたを本当に愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7